

7月25日(月)

内から変えられる

聖書朗読 マルコ 5:1~20

この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえるために、心の一新によって自分を変えなさい。ローマ 12:2

「人は本当に心の底から変わるのか？」 この問いは、有史以来人々が問い続けてきた問いかも知れません。自己啓発に関心のある人は、この種の問いに非常に関心を持っていることでしょう。また、作家たちもこうした問いの答えを探求し続けていると言えましょう。ディケンズの小説『クリスマス・キャロル』の主人公エベネーザ・スクルージの心の変化の描写は、正にその象徴と言えましょう。

人は「心から変わりたい」と願うものですが、その人が自分で自分自身を大きく変えることができるのかと言うと、それは実際には大変難しいことです。パウロ自身、「自分が本来願っていることを行うことは非常に難しい」ということを述べています(参照、ローマ7:15以下)。つまり、私たち人間は、「どう生きるべきか」を知ることが出来ても、その通りに生きることは(自分の努力だけでは)とても難しいのです。ですが、そんな私たちも、主イエスを通してなら、変えて頂くことが出来るのです。あの「悪霊につかれた人」がイエス様によって癒される出来事を考えてみて下さい(マルコ5:1~20)。誰も「悪霊につかれた人」を変えることは出来ませんでした。ですが、主イエスは彼を癒して下さり、彼は大きく変えられました。以前、彼は(狂人扱いされて)人々から恐れられていましたが、今や、彼は多くの人々から愛される人となったのです。

イエス様の「人を変える力」がこれほど豊かであるならば、私たちをも大きく変えて下さることは確かです。ですから私たちは、主イエスにあって、「内から変えて頂く希望」を持つことが出来るのです。

讃美歌 333

祈り 親愛なる神様、全てはあなたの御手にあります。ひとり子である、イエス様を与えて下さり、希望を持つことが出来たことに感謝します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジョエル・セルビー

今日の日

2022年7月25日~7月31日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

7月26日(火)

旅は身軽に

聖書朗読 マルコ 6:7~13

こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまとわりつく罪とを捨てて、私の前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。

ヘブル 12:1

旅は身軽に！——それは、なんて難しいことでしょう。3週間家族でヨーロッパを旅するために荷造りをしました。様々な都市を巡りますし、使う交通機関も様々です。従って、重い荷物は文字通り足枷となることでしょう。無駄なエネルギーを消費するし、場合によっては追加料金が発生することもあるでしょう。これらのことを考えると、本当に必要な物だけを持って行くべきだと実感します。

イエス様が12人の弟子たちを遣わされた時、身軽に行くように、不要なものは持って行かないようにと言われました。イエス様は、弟子たちが心より神様に頼り頼むよう願われたのです。そして、(物理的な)重い荷物を背負って疲れてしまうことが無いよう願われたのです。こうして弟子たちは、神に頼り頼みながら、霊的疲れを出来るだけ軽減し、イエス様から与えられた使命を果たしていくのでした。

私たちも、信仰の旅路にとって不要なものを(持っていかずに)置いていく必要があるのではないのでしょうか。「私たちの神様に対する信頼を妨げるもの」や「私たちに与えられた使命から、私たちの目をそらさせるようなもの」は、私たちの信仰の旅路を困難なものとしめます。つまり、私たちから奉仕の機会を奪い、私たちを霊的に疲れさせるのです。ですから私たちは、信仰の旅路に必要な物を賢く選択して、奉仕の機会を大切にしながら、霊的に豊かな信仰の旅路を歩んで参りましょう。

讃美歌 270

祈り 神様、あなたが与えて下さっている信仰の旅路を、私たちがあなたに頼り頼みつつ歩むことが出来ますよう、お導き下さい。与えられている奉仕の機会を大切にしていけることが出来ますよう、お導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

シャイル・ボーエン

7月27日(水)

思いやり

聖書朗読 マルコ 6:30~44

イエスは、舟から上がられると、多くの群衆をご覧になった。そして彼らが羊飼いのいない羊のようであるのを深くあわれみ、いろいろと教え始めた。

マルコ 6:34

本日の聖書箇所において、イエス様と弟子たちは、人里離れたところに居て十分な食料等(人々に分け与える物資)を殆ど持ち合わせていませんでした。しかし、そのような状況においても、主イエスによる「人々を慈しみ、人々を助ける働き」は続けられました。この時イエス様ご自身は、お疲れで、休息をお取りになりたかったことでしょう。しかし、主は多くの群衆を見て、彼らを憐み、彼らを教えられました。また、この時イエス様や弟子たちは足り余るほどの食料を持っていた訳では決してありませんでしたが、群衆に食料を配って下さいました。

何かをあり余る程持っている人が、その持っているものの一部を誰かに差し上げた場合、それが必ずしも「思いやりにあふれた行為」なのかどうかは分かりません。その一方、「思いやりにあふれた行為」は、「多くのものを持たない人」でも実践することが出来るのです(参照、II コリント8:2)。(誰かに分け与えるためのものを)殆ど何も持っていないような人でも、「与える人」として生きることが出来るのです。実際、「(他の人々を助けるために忙しいくて)『時間がない!』と言っている人」の方が、「暇で時間を持て余している人」よりも沢山の時間を人々に捧げている(与えている)と言えましょう。同様に、「沢山のものを持っていない人」の方が、実際には「沢山のものを持っている人」よりも、他の人々に多くのものを捧げている場合があります。

イエス様は、(地上的な価値観では)貧しい生活をされました。しかし、どこまでも人々を憐れみ、人々のために「与えるお方」であったから、五千人もの人々に食料を分け与えることが出来たのです。私たちの教会は、(人の目から見たら)貧しいかもしれませんが、教会がイエス様のように人々に対して憐れみの心、慈しみの心、思いやりの心を持って奉仕に励む時、神様は私たちを通して働いて下さいます。そして、私たちは周りの人々と(私たちが想像する以上に)多くの恵みを分かち合うことが出来ることでしょう。

私たちがただ愛し続けたらどうなるでしょう...

まだ愛されてない人々を?

—ルーベン ウエルチ

讃美歌 121

祈り 思いやりのある人になれるよう、お導き下さい。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

セイヤー・ソールズベリー

7月28日 (木)

平安

聖書朗読 マルコ 6:45~52

イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたした。恐れることはない」と言われた。 マルコ 6:50

「イエスは、弟子たちが、向かい風のために漕ぎあぐねているのをご覧になり」と48節にあります。同様の状況を、私たちも人生において経験することはないでしょうか。もがき苦しむのですが、前進出来ないのです。本日の聖書箇所、弟子たちが舟に乗るように指示されたように、私たちも、人生という(言わば)航海に出ていくよう導かれるのですが、主が共におられないように感じる時があります。そんな時、私たちは神様から見捨てられたのかと感じてしまうかもしれません。自分一人で試練と闘わなくてはならないのだと感じてしまうかもしれません。或いは、(神様が共におられず、一人にさせられて)自分は何かのテストをされているのかと、感じてしまうかもしれません。どうしたら良いのか、途方に暮れてしまうかもしれません。

本日の聖書箇所の弟子たちの様子を通して、マルコは、私たちが試練に直面した際に感じがちな孤独感を良く描写しているのではないのでしょうか。見放され、たった一人で戦わなければならないように、私たちは感じてしまう時があります。ですが、マルコが続けて描くように、神様は最善のタイミングで、私たちに現れて下さり、私たちに助け導いて下さるのです。

本日の聖書箇所、イエス様は、最初祈るために山へ向かわれ、その後、湖の弟子たちのところへ来られました。主が近付いてこられた時、弟子たちはそれが主だと分かりませんでした。しかし、主は嵐を静めることを通してご自身が(幽霊などではなく)主イエスであることをお示しになりました。こうして、嵐は静まり、同時に弟子の心にも平安が訪れました。弟子たちの心は、不安から平安へと変えられたのです。

孤独で気が遠くなり、人生の困難に打ち負かされそうになり、不安で一杯になってしまう時、私たちの思いを超えて平安を与えて下さる神様に心に向け、神様の助けを求めて参りましょう。そして心の平安を、イエス様によって回復して頂きましょう。

讃美歌 292

祈り 主イエス様、私のために祈って下さり、ありがとうございます。私たちが苦しい時にも孤独ではなく、あなたが共に居て下さることを思い起こさせて下さい。あなたの恵みがいつもあることを、覚えることができますように。イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

クレイグ・ボウマン

7月29日 (金)

イエス様から目を離さない

聖書朗読 マルコ 9:1~13

彼らが急いであたりを見回すと、自分たちといっしょにいるのはイエスだけで、そこにはもはやだれも見えなかった。 マルコ 9:8

信仰の英雄とも言えるモーセやエリヤと顔を合わせた時の、ペテロの心境はどのような感じだったか想像できますか? この経験に圧倒されたので、ペテロは何とも言えないのか分からなかったのですが、「何か言わなくては」と思ったのでしょうか、ペテロは「天幕を三つ作ります」と思わず言ってしまったのでした。もし私たちがこの場面に居合わせたとしたら、私たちも何を言って良いのか分からず、トンチンカンなことを言ってしまったことでしょうか。

とは言うものの、ペテロの発言は、必ずしも非難されるべき発言だった訳ではないようにも見えます。天幕を作って、日差しや悪天候からイエス様やモーセそしてエリヤをお守りすれば、この素晴らしい(言わば)「三者会談」のような時間をもっと長く持つことが出来る、とペテロは考えたのかもしれませんが。

ところが、その時、次の言葉が聞こえたのです。「これは、わたしの愛する子である。彼の言うことを聞きなさい」(7節)。そして、モーセそしてエリヤはもはや見えず、イエス様だけがそこにおられたのです。

イエス様を通して与えられた「恵みによる救い」が、私たちが旧約の律法から解放したように、私たちはイエス様だけを見つめる必要があるのではないのでしょうか。そして、私たちがイエス様だけを見つめる時、(皆が同じ主イエスだけを見つめるのですから)私たちは一つとされていくのではないのでしょうか。キリスト教世界の中にも、分裂という悲しい問題がありますが、私たちがただ主に心の目を注いでいくとき、分裂の問題は解決へと一歩進むのではないのでしょうか。

ヘブル12:2に「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい」と記されています。この聖句を心に刻んで歩んでいくとき、私たちは主にある知恵を頂いて、一つとなっていくことが出来るのではないのでしょうか。

讃美歌 162

祈り 神様、日々の生活に追われイエス様のことをおざなりにしてしまう時があることをお赦し下さい。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ジーン・シェルバーン

7月30日(土)

用いられた匿名の女性

聖書朗読 マルコ 14:1~9

まことに、あなたがたに告げます。世界中のどこでも、福音が宣べ伝えられる所なら、この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう。

マルコ 14:9

ベタニヤである女性が主イエスに香油を注いだという出来事の記事は、多くのクリスチャンたちにとって「好きな聖書箇所」ではないでしょうか。油を注いだ女性は十分に理解していなかったかもしれませんが、彼女がしたことは、後の主イエスの埋葬の準備となりました。この女性が誰だったのかは、はっきりとは分かりませんが、彼女がしたことは、今日も聖書を通して語り継がれています。

確かに、油を注いだ女性が誰だったのかは不明です。しかしながら、約二千年経った今でも、この女性の行いは記念されているのです。そして、この女性のしたことは、主イエスの十字架を指示す行いとして、記念されているのです。主イエスの十字架の出来事は、その後の復活へと繋がっています。その意味において、主に油を注いだ女性は名前こそ不明ですが、神様の大きい御業を指し示すために用いられたと言えます。そしてこの女性の働きは、今日の私たちにも語り継がれているのです。

(日常生活で) 私が話す言葉や私の行いが、少しでも主イエスとその御業(みわざ)を指し示すものとなりますよう、私は祈ります。私の名前は語り継がれなくとも、「私の話す言葉や行いを通して神様が私を用いて下さった」ということが(神の証として)語り継がれることを、私は祈ります。

讃美歌 391

祈り 親愛なる神様、あなたが私たち一人ひとりを覚えて下さっていることを感謝します。イエス様を証しするものとして、私たちをお用い下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

サンデ・ドーアティ

7月31日(日)

多くの人のため

聖書朗読 マルコ 14:22~31

イエスは彼らに言われた。「これはわたしの契約の血です。多くの人のために流されるものです。」

マルコ 14:24

上掲の聖書箇所にある「多くの人」たちとは、誰でしょうか? その「多くの人」たちは、どこにいる人たちなのでしょう? これらの問いに対する正確な答えを用意することは、困難と言えましょう。しかし、主イエスに救いを求める人々は、その「多くの人」に含まれていることは確かだと思います。

「多くの人」の一部として、救いに与る人がさらに増し加えられるために、自分がどのような役割を果たすことが出来るか、考えてみたことはありますか? ある時、漁師さんがそのお子さんたち二人を連れて、私のもとにやって来ました。そして、「イエス様は、私たちのためにも血を流して下さいたのですか?」という趣旨の質問を私にしました。もちろん私は、「そうですよ」と言って、主の十字架の意味を説明しました。そして、説明しながら、私は世界各地にいる私の友人たちの顔を思い浮かべながら、「確かに主は『多くの人』のために十字架に掛けて下さったのだ!」、と改めて思い起こしました。ドイツ、ノルウェー、ルーマニア、ポーランド、ガイアナ、マダガスカル、そしてアメリカにいる人も、クリスチャンはすべて、主イエスが流して下さった血潮によって罪から救われた「多くの人」の一部なのです。

日曜日の聖餐に与る時、私も「多くの人」の一人なのだということを思い起こしたいと思います。そして、救いに与る人がさらに増し加えられるために、主の愛を証しする者として歩みたい、と改めて思われます。

讃美歌 332

祈り 神様、イエス様が多くの人のために十字架に掛けて下さったことを、感謝致します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ウィリアム・E・マクドナー